

## 1. 総論

## 【総括判断】「管内経済は、持ち直している」

項目	前回（6年1月判断）	今回（6年4月判断）	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	→

（注）6年4月判断は、前回6年1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

## （判断の要点）

個人消費は、スーパーやコンビニエンスストアが堅調となっているほか、観光も緩やかに回復していることから、全体としては持ち直している。生産活動は、電気機械が弱含んでいるものの、汎用・生産用機械が持ち直しているほか、食料品が持ち直しつつあることから、全体としては一進一退の状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

## 【各項目の判断】

項目	前回（6年1月判断）	今回（6年4月判断）	前回比較
----	------------	------------	------

個人消費	持ち直している	持ち直している	→
生産活動	一進一退の状況にある	一進一退の状況にある	→
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→

設備投資	5年度は前年度を上回る見込み	5年度は前年度を上回る見込み	→
企業収益	5年度は減益見込み	5年度は減益見込み	→
企業の景況感	現状判断は「上昇」超	現状判断は「下降」超	↘
住宅建設	前年を上回っている	前年を下回っている	↘
公共事業	前年度を上回っている	前年度並みとなっている	↘

## 【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、持ち直しが続くことが期待される。ただし、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「持ち直している」

スーパーは、衣料品が弱い動きとなっているものの、飲食料品や身の回り品が堅調であることから、全体としては堅調となっている。コンビニエンスストアは、飲料品や米飯類等に動きがみられることから、全体としては堅調となっている。ドラッグストアは、飲食料品や化粧品に動きがみられることから、全体としては順調となっている。家電大型専門店は、一部の高付加価値製品に動きがみられるものの、季節商品の動きが弱いことなどから、全体としては弱含んでいる。ホームセンターは、季節商品の動きが弱いものの、防災用品に動きがみられることから、全体としては底堅いものとなっている。百貨店は、飲食料品や高額品等に動きがみられることから、全体としては堅調となっている。乗用車の新車登録・届出台数は、普通車は前年を上回っているものの、小型車及び軽乗用車は前年を下回っており、全体としても前年を下回っている。観光は、外国人観光客の増加により、緩やかに回復している。国内旅行は、回復しつつあり、海外旅行は、緩やかに持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 暖冬の影響などから、冬物衣料が不調。(スーパー)
- 春休みで在宅率が上がり、行楽シーズンでもあるため、総菜はお弁当を中心に引き続き好調。冷凍食品の弁当用食材も好調。(スーパー)
- コロナ5類移行に伴う外出需要が継続しており、キャリーバッグ、化粧品の売れ行きがよい。(スーパー)
- 昨年よりも気温が高かったことなどから、ソフトドリンクなどの飲料やアイスクリームの売上が好調であった。(コンビニエンスストア)
- 新商品投入やセールなどの販売促進効果により、おにぎりや弁当、ペットボトル飲料などの売れ行きがよい。(コンビニエンスストア)
- 売場面積拡大や商品数増加などの取組みにより、冷凍食品をはじめとした食品全般の売れ行きがよい。(ドラッグストア)
- 外出機会やマスクを外す機会が増加したことで、化粧品全体の売上が回復している。(ドラッグストア)
- 比較的暖かい日が多く、カイロなどの季節用品は苦戦した。(ドラッグストア)
- 時短意識の高まりなどから、高付加価値・高機能製品へのニーズは引き続き高い。(家電大型専門店)
- 暖冬のため、エアコン等の暖房機器全般の売れ行きが悪かった。(家電大型専門店)
- 暖冬の影響で暖房用品や防寒用作業着などが不調。(ホームセンター)
- 能登半島地震発生により、お客様の防災意識が高まり被災エリアとは異なる四国においても防災関連用品の売上が伸びた。(ホームセンター)
- 催事により洋菓子が好調であるほか、国内旅行需要の回復もあって地元銘菓もよく売れている。(百貨店)
- 外出機会の増加から化粧品が好調であるほか、ブランドバッグや高級時計も引き続き好調。催事が好評で食料品の売上も増加。(百貨店)
- 自動車メーカーの工場停止の影響などから、登録台数は減少傾向。(乗用車)
- インバウンドについて、韓国、台湾を中心に、力強い需要で回復傾向にある。(観光)
- 新型コロナウイルス感染症の影響で抑制されていた潜在的な旅行需要が、回復している。(旅行)
- 話題性の高いテーマパークなどに、旅行者の需要が集中している。(旅行)

### ■ 生産活動 「一進一退の状況にある」

化学は、医薬品に動きがみられることから、緩やかに持ち直しつつある。食料品は、堅調な需要を背景に、持ち直しつつある。電気機械は、電子部品に弱さがみられることから、弱含んでいる。汎用・生産用機械は、建設工事向けに動きがみられることから、持ち直している。

- 医薬品は国内需要、海外需要ともに順調であり、販売額は増加している。(化学)
- 冷凍食品は手軽さなどから人気が高く、受注状況は引き続き好調。(食料品)
- パソコン向けをはじめ幅広い分野において半導体需要が落ち込んでいる。(電気機械)
- 建設工事向けの需要は順調であり、引き続き高操業となっている。(汎用・生産用機械)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は横ばいとなっている。新規求人数は前年を下回っている。法人企業景気予測調査の従業員数判断BSIをみると、3月末は全産業で35.8%ポイントと「不足気味」超となっている。

- 新規求人数が減少しているのは前年の反動などによるものも多く、依然として様々な業種で人手不足感がある。(労働局)
- 人手が集まらないため、外国人労働者の受け入れを進める動きが一部で見られる。(労働局)
- 運輸業では2024年問題への対応として、トラックドライバーなどの大口求人が増加している。(労働局)
- 人材派遣を活用して人手不足を補っているが、その結果人件費が増加してしまっている。(小売業)

■ 設備投資 「5年度は前年度を上回る見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年1~3月期

○ 製造業及び非製造業で前年度を上回る見込みとなっており、全体としても前年度を上回る見込みとなっている。

■ 企業収益 「5年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年1~3月期

○ 非製造業で増益見込みとなっているものの、製造業で減益見込みとなっており、全体としても減益見込みとなっている。

■ 住宅建設 「前年を下回っている」

○ 新設住宅着工戸数で見ると、分譲は前年を上回っているものの、持家及び貸家は前年を下回っており、全体としても前年を下回っている。

- 物価高による節約志向と、建材価格や人件費の上昇による住宅価格の高騰により、住宅需要は低調となっている。(専門サービス業)

■ 公共事業 「前年度並みとなっている」

○ 前払金保証請負金額で見ると、国及び市町村は前年度を下回っているものの、独立行政法人等は前年度を上回っており、県は前年度並みとなっていることから、全体としても前年度並みとなっている。

3. 各県の総括判断

	前回 (6年1月判断)	今回 (6年4月判断)	前回比較	総括判断の要点
香川県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
徳島県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。
愛媛県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、持ち直しのテンポが緩やかになっている。
高知県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。